

特別高度救助隊が発足

東日本大震災などを教訓に、首都直下地震や大規模な水害など、通常消防力では対応が困難な救助事象に迅速に対応するため、令和2年4月1日に特別な高度資機材を装備した特別高度救助隊が発足しました。

川口市特別高度救助隊概要

配 置：北消防署消防課

愛 称：スーパー・アドバンスド・レスキュー川口
(先進・進化した救助隊の意味)

隊 員：高度救助隊員有資格者の中から選抜された22人

車 両：救助工作車・資機材搬送車・はしご車

装 備：特別な高度救助資機材をはじめ救助資機材一式

隊員章



特別高度救助隊とは

人命の救助に関する専門的かつ高度な教育を受けた隊員と特別な高度救助資機材を装備した救助工作車、そして資機材搬送車とはしご車で編成された精鋭部隊で、市内の通常災害はもとより、県内外において地震等の大規模災害が発生した際の要請に対し、即座に対応できる体制を整えています。

政令市には設置が義務付けられていますが、自主的に整備したものです。



特別高度救助隊員の資格

消防大学校や埼玉県消防学校などで実施している「人命の救助に関する専門的かつ高度な教育」を修了することが必要です。

通常の救助活動に加え、地震等の大規模災害に対応するために必要な知識及び能力を修得します。



特別高度救助資機材

地震などにより倒壊した建物や、がれきの中などに取り残されている人を発見したり、濃煙や暗闇、水中の中で逃げ遅れた人を発見するための資機材です。

画像探査機 I 型】



先端にある小型カメラで、映像の確認、マイク、スピーカーで要救助者と会話することができます。ガス測定や空気を送ることも可能です。

【画像探査機 II 型】



伸縮棒先端にある小型カメラで、内部の映像を確認できる資機材です。

軽量なため、機動性に優れています。

【地中音響探知機】



倒壊家屋やがれき、土砂等に閉じ込められた、人のわずかな音や振動をキャッチし、位置を特定する資機材です。

【熱画像直視装置】



煙の中や暗闇の中で、人が発する熱などを感知して、逃げ遅れた人を発見する資機材です。

【夜間用暗視装置】



わずかな光を増幅し、暗闇の中の物体を鮮明映し出す資機材です。



【地震警報器】



地震発生時に、人間が感じにくい初期微動を感知し、大きな揺れが到着する前に知らせる資機材です。

震災現場で活動する隊員の二次災害を防ぎます。

【電磁波探査装置】



心臓や呼吸による微小な肺の動きを電磁波で検知する資機材です。

生存者までの距離・角度を正確に表示することができます。

【二酸化炭素探査装置】



呼吸により排出される二酸化炭素や排泄物などから発するアンモニアを検出することができます。

【水中探査装置】 (川口消防局仕様)



リモコン操作で船上のカメラを水中に降下させて、水中の画像を確認できる資機材です。GPS搭載で川の流れの中でも要救助者を発見した位置を自動保持できます。

【特殊災害対応車】



特殊災害対応資機材や遠距離大量送水システムを災害に合わせて積み替え出来るコンテナ式の車両です。



★隊員章

川口市の伝統産業である鋳物。
救助にかける情熱を、その溶解炉からでる炎に見立て不死鳥の形で表した。
不死鳥ごとく、どのような困難な災害現場からも市民を救い、無事に帰還する思いが込められている。
「SINCE 1967」川口市が救助隊を発足した年！



★川口消防救助隊の歩み

昭和42年	8月	1日	救助隊の発足
昭和47年	4月	1日	特別救助隊の発足
昭和61年	4月	1日	国際消防救助隊に登録
平成7年	1月23日～27日		広域消防応援(阪神淡路大震災:兵庫県神戸市)
平成7年	9月12日		緊急消防援助隊に登録
平成11年	9月21日～28日		国際消防救助隊派遣(台湾地震)
平成15年	5月23日～29日		国際消防救助隊派遣(アルジェリア地震)
平成16年	7月14日～15日		緊急消防援助隊派遣(新潟・福島豪雨:新潟県三条市)
平成16年	10月24日～26日		緊急消防援助隊派遣(新潟県中越地震:新潟県小千谷市)
平成23年	3月11日～31日		緊急消防援助隊派遣(東日本大震災:岩手県陸前高田市)
平成26年	4月	1日	高度救助隊の発足
令和2年	4月	1日	特別高度救助隊の発足

【令和2年4月7日発足式】

